社会資本総合整備計画 事後評価書

令和04年09月20日

計画の名称	緑豊かな都市公園づくりの推進											
計画の期間	平成30年度 ~ 令和02年度 (3年間)										重点配分対象の該当	
交付対象	朝霞市											
計画の目標	朝霞市は、公共施設及び民有地等の緑化推進のため、みどりの基本計画及び景観計画の策定、また特別緑地保全地区の指定や生け垣等設置補助制度による助成を行っているほか、保全が必要とされる樹木・樹林に対し保護地区・保護樹木の指定を行うなど、都市に残された貴重な自然環境の保全・創出に取り組んでいる。みどりの基本計画において緑化重点地区に定めているシンボルロード緑地について、コンクリート等の既存の人工地盤を削孔または撤去することで、自然地盤を確保し、グリーンインフラ事業として雨水浸透機能の向上を図る整備を行うとともに、緑化重点地区内の公共空間の緑化を図り、自然環境が持つ多様な機能を活かして育て世代を含むさまざまな世代の方にとって滞在しやすい環境づくりの推進を行い、賑わいと憩いのある地域コミュニティの形成を図る。 併せて、借地による公園用地のうち、雑木林で覆われた民有斜面地の買取りを行い、公共空地の公有化を図り、雨水浸透機能を有した緑地の永続性を担保する。											
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	278	A	278	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0 %

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H30当初	R1末	R2末
1	シンボルロード緑地において雨水浸透機能の向上を図るため園路・広場の整備において、既存の人工地盤を撤去・削孔し、自然地盤を創出して透水性を確保する。 透水性が確保された区域の面積 人工地盤を削孔または撤去した区域の面積	0㎡	9000㎡	10000㎡
2	シンボルロード緑地における地域コミュニティ形成の推進を図る。 令和2年に開催するイベントの件数 イベント回数	0回	1回	10回
3	水久保公園の公園用地のうち一部借地となっている土地を買取り公有化することで雨水浸透機能を有した緑地の永続性を担保する。 水久保公園の総面積に対する公有化された面積の割合 公有化率 = 公有地 / 総面積	83%	83%	96%
4	水久保公園における地域コミュニティ形成の推進を図る。 水久保公園におけるイベントの件数 申請受付件数	6件	6件	10件

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業																			
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名(事業箇所)	事業内容(延長・面積等)	市区町村名/港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	費用便益比	個別施設計画策定状況
												H30	H31	R02	R03	R04			
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
都市公園・緑地等事業	A12-001	公園	一般	朝霞市	直接	朝霞市	-	-	朝霞市緑地環境事業	吸収源対策(シンボルロード緑地の園路・広場の整備2.1ha(H30,H31))	朝霞市						180	-	-
		吸収源対策(180百万円)																	
	A12-002	公園	一般	朝霞市	直接	朝霞市	-	-	朝霞市グリーンインフラ活用型都市構築支援事業	グリーンインフラ活用型都市構築支援事業(シンボルロード緑地の園路・広場の整備等、水久保公園の用地取得0.1ha)	朝霞市						98	-	-
		グリーンインフラ活用型都市構築支援事業創設に伴う事業設定																	
												小計						278	
											合計						278		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
社会資本総合整備計画の事後評価として朝霞市都市建設部みどり公園課で実施。	令和4年度
	公表の方法
	市ホームページに掲載。
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	シンボルロード緑地について、コンクリート等の既存の人工地盤を削孔または撤去することで、自然地盤を確保し、グリーンインフラ事業として雨水浸透機能の向上を図る整備を実施し、公共空間の緑化により自然環境が持つ多様な機能を活かし子育て世代を含むさまざまな世代の方にとって滞在しやすい環境づくりの推進を行い、賑わいと憩いのある地域コミュニティの形成を図りました。併せて、借地による公園用地のうち、雑木林で覆われた民有斜面地の買取りを行い、公有化を図ることにより、雨水浸透機能を有した緑地の持続性を担保した。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
今後もグリーンインフラ整備事業を実施し、雨水浸透機能の向上を図り、自然環境が持つ多様な機能を活かした賑わいと憩いのある地域コミュニティの形成と緑化の持続性の担保を図る。	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	最終目標値	10000m ²	市民の意見を取り入れ、緑とオープンスペースを確保し整備工事をした結果、目標値と差が生じた。
	最終実績値	15000m ²	
2	最終目標値	10回	新型コロナウイルス感染症拡散防止のため、イベントが制限されたため目標値と差が生じた。
	最終実績値	3回	
3	最終目標値	96%	
	最終実績値	96%	
4	最終目標値	10件	新型コロナウイルス感染症拡散防止のため、イベントが制限されたため目標値と差が生じた。
	最終実績値	6件	